

CONTENTS

広報

ななほ

2009 No.57

6

目次

- 2 ひと人ひと
- 3 春の叙勲・褒章、高齢者叙勲
危険業務従事者叙勲
- 4 21年度事業のそこの知りたい⑤
- 6 協働のまちづくり推進事業
- 7 暮らしの税情報
- 8 と〜くあばうと／市長談話室／
ななこちゃんのエコ生活
- 9 今月の市民相談／ケーブルテレビ番組
紹介
- 10 情報ランド
- 16 まちの顔
- 18 伸ばせ！七尾っ子プロジェクト／
児童館へ行く
- 19 イベント情報
- 20 休日医療情報／不用品活用銀行
- 21 みんなの本棚
- 22 能登島ガラス美術館 企画展／
わが家のアイドル

今月の表紙

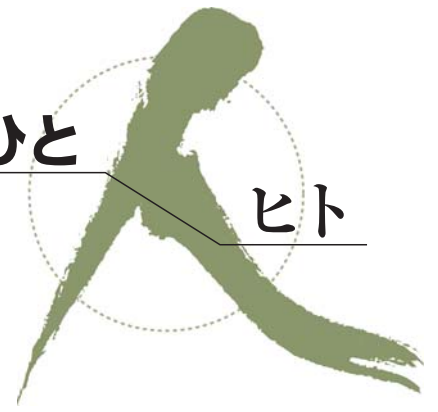
国の重要無形民俗文化財に指定されている「青柏祭の曳山行事」。なかでも、最大の見せ場は「でか山」を90度に方向転換させる『辻廻し』。若衆の威勢と心意気の見せどころであり、その様は圧巻の一言。木遣り唄にあわせて呼吸をあわせ、心をついに「エンヤ、エンヤ」と気合いをかけ、「でか山」を一気に方向転換させる。

七尾に古来より息づく豪快勇壮な「でか山」を誇りに、未永く守り続けてもらいたい。

(※16ページに関連記事)

ひと

ひと



日本と中国の 架け橋になりたい

七尾市国際交流員

張月さん
ちようげつ



「月ちゃんの料理教室」
5月17日：金ヶ崎公民館

右から2人目です

皆さん、初めまして。4月9日に七尾市の国際交流員として着任した張月です。中国遼寧省の沈陽市出身で、父と母の3人家族です。(中国では一人っ子政策により、1980年代以降に生まれた人のほとんどが一人っ子です。私は1984年生まれです)

高校まで沈陽にいましたが、日本の歌やアニメにとっても興味があったので、大学は大連市にある大連日本語大学に進み、日本語の勉強に励みました。大学時代には姉妹校である北陸大学(金沢市)で交換留学生として2年間過ごしました。その時にたくさんの方々と出会い、楽しい思い出ができたことで、さらに日本のごことが好きになりました。

自分の目で見て、心で感じた日本を多くの中国の人に伝え、また、中国のこと、も一人でも多くの日本人に紹介して、両国の架け橋となり友好を深めるために力を尽くしたいと思い、国際交流員の仕事に応募しました。

私は国際交流員を志望する時に第一希望に「七尾市」と書きました。なぜなら留学していた時に、能登出身の友だちから七尾は海がすこきれいで、人が優しく、住みやすい場所だと聞いていたからです。希望通りに七尾に来ることができ、心からうれしく思っています。実際に七尾に着いた時も、海や山に囲まれた景色を見て一目惚れしてしまいました。

皆さんの中で「中国のことを知りたい、中国に旅行したい」という人もたくさんいらっしゃると思います。前任の王榮さんに引き続き、中国語、料理、国事情、文化などを通じて交流を図りながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。





長年の功績に光

長年にわたりそれぞれの分野で尽力された方々が、荣誉に輝かれました。

春の叙勲

● **瑞宝小綬章**
こうさか ていじ
上坂 倂二さん
(75歳) 矢田町



鵬学園高等学校長

昭和36年から父の故郷太郎さんが開校した鵬学園高等学校(前七尾女子高等学校)とともに働き、現在は校長を務める。「能登に私学は育たない」といわれながらも、生徒募集のために県内全域の中学校を必死で駆け回った。現在は部活動を活発にするとともに進学指導にも力を注ぐ。「していることすべてが教育」を信条に、「これまですべての教員がよく働き、学校を支えてくれた。これからもがんばりたい」と気を引き締める。

春の褒章

● **黄綬褒章**
なが え えい き
永江 榮毅さん
(67歳) 田鶴浜町



永江建具製作所代表

田鶴浜建具350年の伝統の重みを感じながらも、挑戦する姿勢を今でも持ち続ける。能登鹿北商工会長も務め、「田鶴浜建具まつり」「七尾湾能登かき祭」のとりまおつけ祭り」など鹿北地区の特徴を活かした地域おこしにも力を注ぐ。「若い頃から人生の節目には必ず自分を助けてくれる人との出会いがあった。そのすべての人が今でも財産」と話す。その視線の先には新たな何かを見据えている。

高齢者叙勲

● **瑞宝双光章**
きたむら りょう
北村 良さん
(88歳) 和倉町



元山王小学校長

昭和16年、19歳のときに教師となり、57年に山王小学校長として退職。今でも戦争当時のことが強く記憶に残っており、話は尽きない。山王小学校長時代には、約1,800人の児童が在籍し、県内で3番目に大きな小学校だった。「児童の顔を覚えられないばかりか、教師とも十分な意思疎通が図れず、あの頃は随分苦労した」と41年間の教員生活を振り返る。

● **藍綬褒章**
たにぐち よしあき
谷口 吉明さん
(66歳) 中島町山戸田



七鹿広域圏第3消防団長

昭和43年から41年間、消防団員として消防活動に尽力。七尾鹿島広域圏事務組合第3消防団長を務め、地域の消防団員とともに昼夜を問わず万一の事態に備える。住宅火災、山火事、水害など数多くの現場を経験し、就寝前には毎日何も起こらないことを願っている。「消防団員や消防職員に励まされ、そして何より家族に支えられてここまでやってこられた」と感謝の気持ちが込み上げる。

危険業務従事者叙勲

● **瑞宝双光章**
たけもと ふじお
武元 夫二男さん
(73歳) 飯川町



元七鹿広域圏消防司令長

昭和33年に消防職員となり、七尾鹿島広域圏事務組合消防司令長として退職。広域での消防事務の一元化のため、昭和46年に七尾鹿島広域圏事務組合消防本部ができたことが当時としては画期的であり、一番の思い出でもある。若い頃から家長となり、不規則な勤務の中で辛いこともあったが、我慢することから多くのことを学んだ。「命の尊さと我慢することの大切さを皆さんにも考えてもらえれば」と締めくくると。

● **瑞宝単光章**
ふくしま さだお
福島 定雄さん
(73歳) 阿良町



元海上保安官

海上保安官として昭和26年から41年間、主に海上での救助活動に尽力。昭和27年には新潟港の堤防に取り残された釣り人の救助のため、強風と高波のなかを必死で救出。昭和40年頃には日本漁船の警戒と指導のため、韓国との漁業水域ギリギリでの緊迫した場面も経験した。「救助や警戒のために、危険とわかってはいる場所にあえて向かっていかなければならない緊張感は今でも忘れない」と振り返る。